

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	カクヨウホジツン ミナモトシヨウカクケン 学校法人 南九州学園								
フリガナ大学の名称	ミナモトシヨウカク 南九州大学								
大学本部の位置	宮崎県宮崎市霧島5丁目1番地2								
大学の目的	<p>「『食・緑・人』に関する実学的教育と研究をすすめる、創造性を富み、人間性と社会性豊かな人材を育成する」という理念に基づいて教育研究し、専門分野において社会に貢献寄与できる人材の輩出を目標としています。</p> <p>この目標を実現するため、全学的な教養教育組織およびそれぞれの学部・学科において、次のような人材を育成します。</p> <p>1. 教養、人間力、社会性および国際性を身に付け、社会に貢献寄与できる人材 2. 環境と生命の調和および持続可能な発展を踏まえた「食・緑・人」の専門分野における基礎および実学を教育研究し、社会に貢献寄与できる人材</p>								
新設学部等の目的	設置以来（平成21年度～令和5年度）の入学定員充足状況（充足率86.4%）を踏まえ、入学定員を130人から110人に削減し、定員数の適正化並びに大学財政の健全化を図る。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	環境園芸学科	年	人	年次人	人	学士（農学）	年月 第年次 令和6年度 第1年次	宮崎県都城市立野町 3764番地	
	計		110 (130)		440 (520)				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計	単位			
		科目	科目	科目	科目	単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	環境園芸学部 環境園芸学科	12人 (12)	2人 (2)	2人 (2)	0人 (0)	16人 (16)	0人 (0)	31人 (31)
		計	12人 (12)	2人 (2)	2人 (2)	0人 (0)	16人 (16)	0人 (0)	—人 (—)
	既設	人間発達学部子ども教育学科	5 (5)	8 (8)	3 (1)	0 (1)	16 (15)	0 (0)	20 (20)
		健康栄養学部管理栄養学科	6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	6 (6)	17 (17)
		健康栄養学部食品開発科学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (1)	7 (8)	1 (1)	19 (19)
	教養教育センター	2 (2)	2 (2)	2 (1)	0 (1)	6 (6)	0 (0)	37 (37)	
	計	18 (18)	15 (15)	8 (5)	0 (3)	41 (41)	7 (7)	— (—)	
	合計	30 (30)	17 (17)	10 (7)	0 (3)	57 (57)	7 (7)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		36人 (36)		6人 (6)		42人 (40)		
	技術職員		4人 (4)		0人 (0)		4人 (4)		
	図書館専門職員		2人 (2)		3人 (3)		5人 (4)		
	その他の職員		0人 (0)		0人 (0)		0人 (0)		
	計		42人 (42)		9人 (9)		51人 (51)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	南九州大学短期 大学部（必要面 積2,000㎡）と 共用 （収容定員200 人）				
	校舎敷地	40,796㎡	28,687㎡	1,888㎡	71,371㎡					
	運動場用地	18,140㎡	0㎡	4,006㎡	22,146㎡					
	小 計	58,936㎡	28,687	5,894㎡	93,517㎡					
	そ の 他	8,929㎡	9,131㎡	3,843㎡	21,903㎡					
	合 計	67,865㎡	37,818㎡	9,737㎡	115,420㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		25,557㎡ (25,557㎡)	4,854㎡ (4,854㎡)	1,219㎡ (1,219㎡)	31,630㎡ (31,630㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	室	室	室	室 (補助職員 人)	室 (補助職員 人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
				室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標本			
		冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点			
		([])	([])	([])	()	()	()			
	計	([])	([])	([])	()	()	()			
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
		㎡								
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		㎡								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体	
		教員1人当り研究費等		180	180	180	180			
		共同研究費等		6,950	6,950	6,950	6,950			
		図書購入費	17,625	17,625	17,625	17,625	17,625			
	設備購入費	15,080	15,080	15,080	15,080	15,080				
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		届出学科	
	1,178千円	1,178千円	1,178千円	1,178千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		南九州大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	環境園芸学部									
	環境園芸学科	4	130	0	520	学士（農学）	0.70	平成21年度	都城市立野町3764 番地1	
	人間発達学部									
	子ども教育学科	4	80	0	320	学士（教育）	0.83	平成22年度	都城市立野町3764 番地1	
	健康栄養学部									
管理栄養学科	4	60	0	240	学士（家政）	0.83	平成15年度	宮崎市霧島5丁目1 番地2		
食品開発科学科	4	40	0	160	学士（農学）	0.89	平成15年度			
園芸学・食品科学研究科										
園芸学専攻	2	4	0	8	修士（農学）	0.37	平成11年度	都城市立野町3764 番地1		
食品科学専攻	2	2	0	4	修士（農学）	1.00	平成11年度	宮崎市霧島5丁目1 番地2		
大 学 の 名 称		南九州大学短期大学部								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地		
	年	人	年次 人	人		倍				
国際教養学科	2	100	0	225	短期大学士	0.45	平成16年度	宮崎市霧島5丁目1 番地2		
		令和4年度入学 定員変更（125								

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：南九州大学環境園芸学部附属フィールド教育センター 目的：環境園芸学部の農学における教育・研究・社会貢献の推進及び活動支援 所在地：都城市立野町3764番地1 設置年月：平成21年4月 規模等：土地 27,880㎡ 建物 5065.63㎡</p>	
----------------	--	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人 南九州学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度 入学定員 編入学定員 収容定員

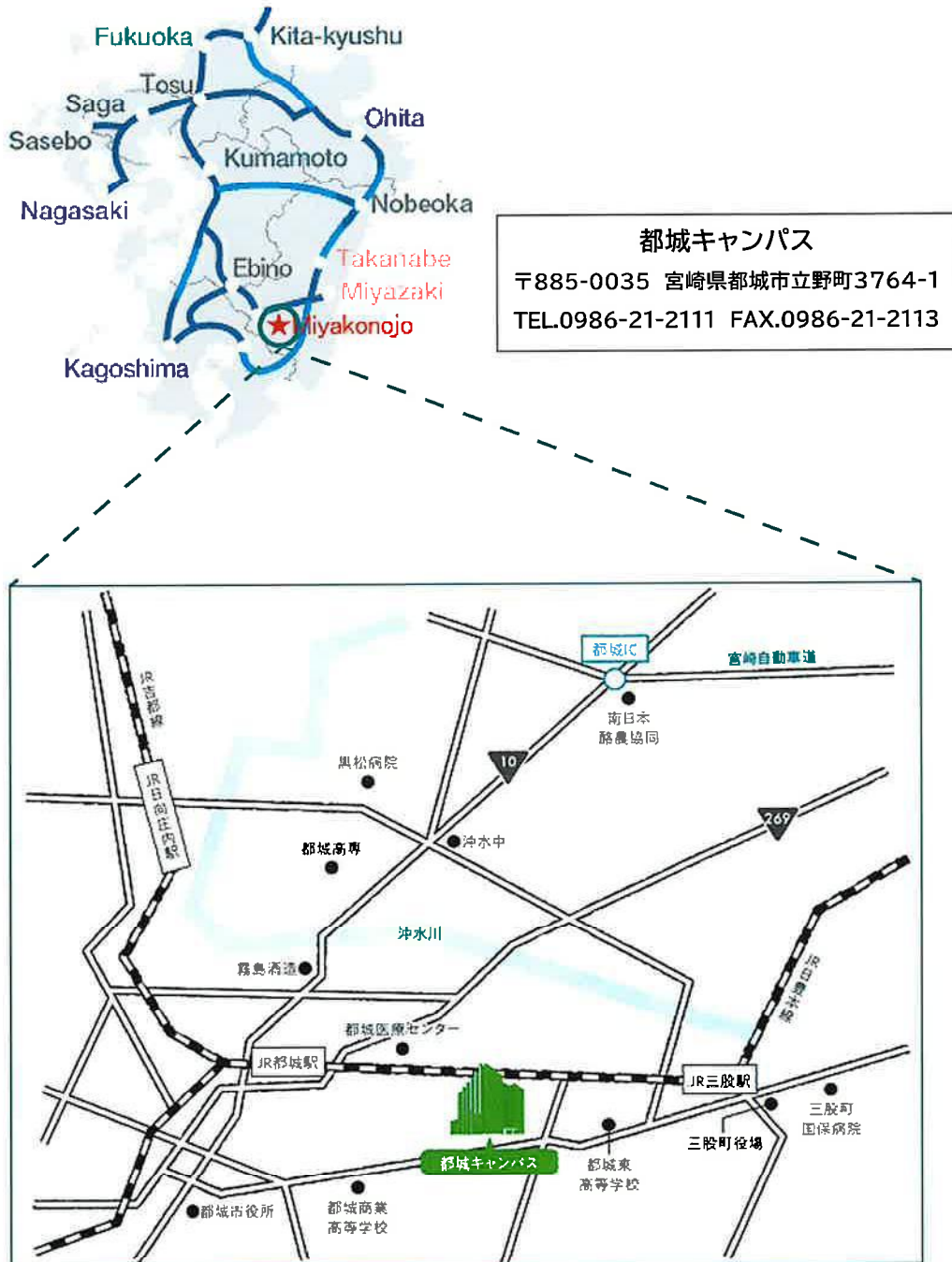
南九州大学			
環境園芸学部			
環境園芸学科	130	—	520
人間発達学部			
子ども教育学科	80	—	320
健康栄養学部			
管理栄養学科	60	—	240
食品開発科学科	40	—	160
計	310		1240
南九州大学大学院			
園芸学・食品科学専攻科			
園芸学専攻	4	—	8
食品科学専攻	2	—	4
計	6		12
南九州大学短期大学部			
国際教養学科	100	—	200
計	100		200

令和6年度 入学定員 編入学定員 収容定員 変更の事由

南九州大学				
環境園芸学部				
環境園芸学科	<u>110</u>	—	<u>440</u>	定員変更(△20)
人間発達学部				
子ども教育学科	80	—	320	
健康栄養学部				
管理栄養学科	60	—	240	
食品開発科学科	40	—	160	
計	310		1160	
南九州大学大学院				
園芸学・食品科学専攻科				
園芸学専攻	4	—	8	
食品科学専攻	2	—	4	
計	6		12	
南九州大学短期大学部				
国際教養学科	100	—	200	
計	100		200	

(1) 都道府県内における位置関係

都城キャンパスへのアクセス



(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間



交通機関

JR日豊本線「都城駅」より宮崎交通バス17分「南九州大学前」下車すぐ

高速バスを利用する場合は「都城北停留所」で下車後、タクシー乗車(都城ICよりキャンパスまで約8Km)

(3) 校舎、運動場の配置図

都城

Miyakonojo

キャンパスMAP

「自然」と「人」が調和する場所

「地域に開かれたキャンパス」がコンセプトの都城キャンパス。メインキャンパスや広大なフィールド教育センター、グラウンド、地域の人が自由に出入りできるヒーリングガーデンなど「自然」と「人」が調和する、のびやかな環境が魅力です！

わたしの大好きな都城キャンパスを一緒に探しましょう！



この施設は、最新の設備と最新の設備を備えています。



校舎群からフィールド教育センターまで徒歩約5分



本館 教科教育演習室 / 5F
小学校の授業で使用する各種教材や最新の情報機器を完備。板書の仕方など教育実習に向けての準備を行います。



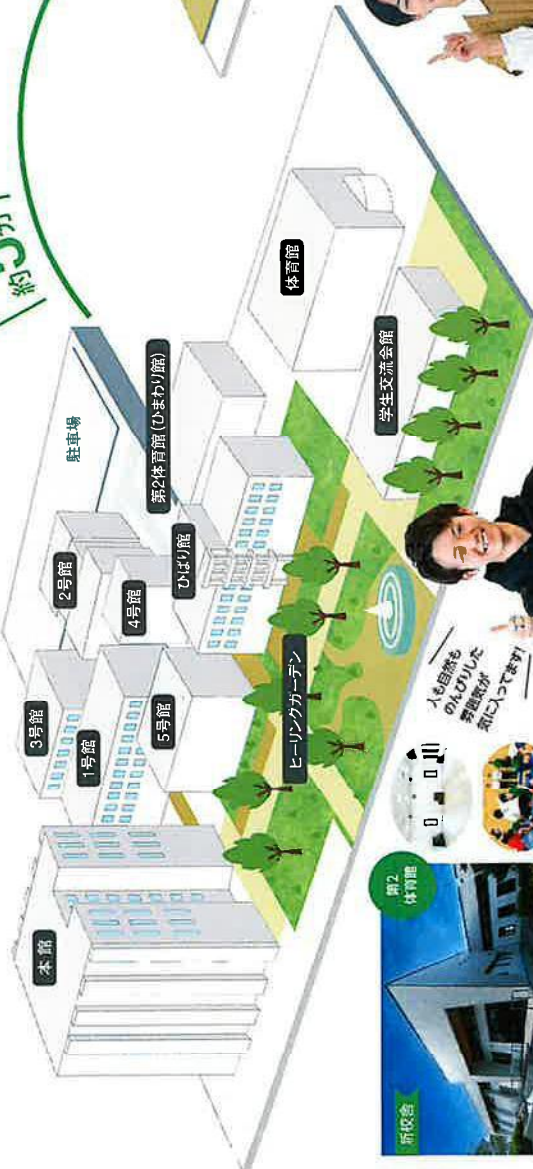
本館 就職課
就職相談や履歴書の添削、模擬面接などを行っています。



本館 図書室 / 2F
10万冊以上の書籍を保有。一棟の方も図書や資料の利用が可能です。



本館 1Fロビー
本館は都城市のランドマーク的存在。施設内には研究室などがあります。



第2体育館 (ひまわり館)
多目的室、車道館、トレーニングルーム、ボリダリング練習場など、授業だけでなく、幅広い学生のサークル活動などにも活用できる施設です。



5号館 コンピューター室 / 2F
学生用のパソコン60台を設置しています。



学生交流会館 (学生食堂)
学生と学生生協 (亦店) を併設した施設。



学生交流会館 (売店)
学生交流会館内にあります。幅広い商品を取り扱っています。



実験室 1 / 1F
実験器具学部が主に使用する施設。最新の実験装置を完備しています。



音楽室 / 3F
電子ピアノ / 50台 / アップライトピアノ / 10台を配備。授業だけでなく自主練習にも開放しています。



フィールド教育センター
キャンパスに隣接した約3ヘクタールの敷地内には、温室24棟、実験圃場、樹木生息園、複合実習棟などを備えています。



5号館 図書室



5号館 学生交流会館 (学生食堂)



学生交流会館 (売店)



学生交流会館 (亦店)



ひばり館
ユニークな形のこの建物。都城キャンパスで活動するクラブ・サークルの部室が入っています。



1号館 音楽室 / 3F



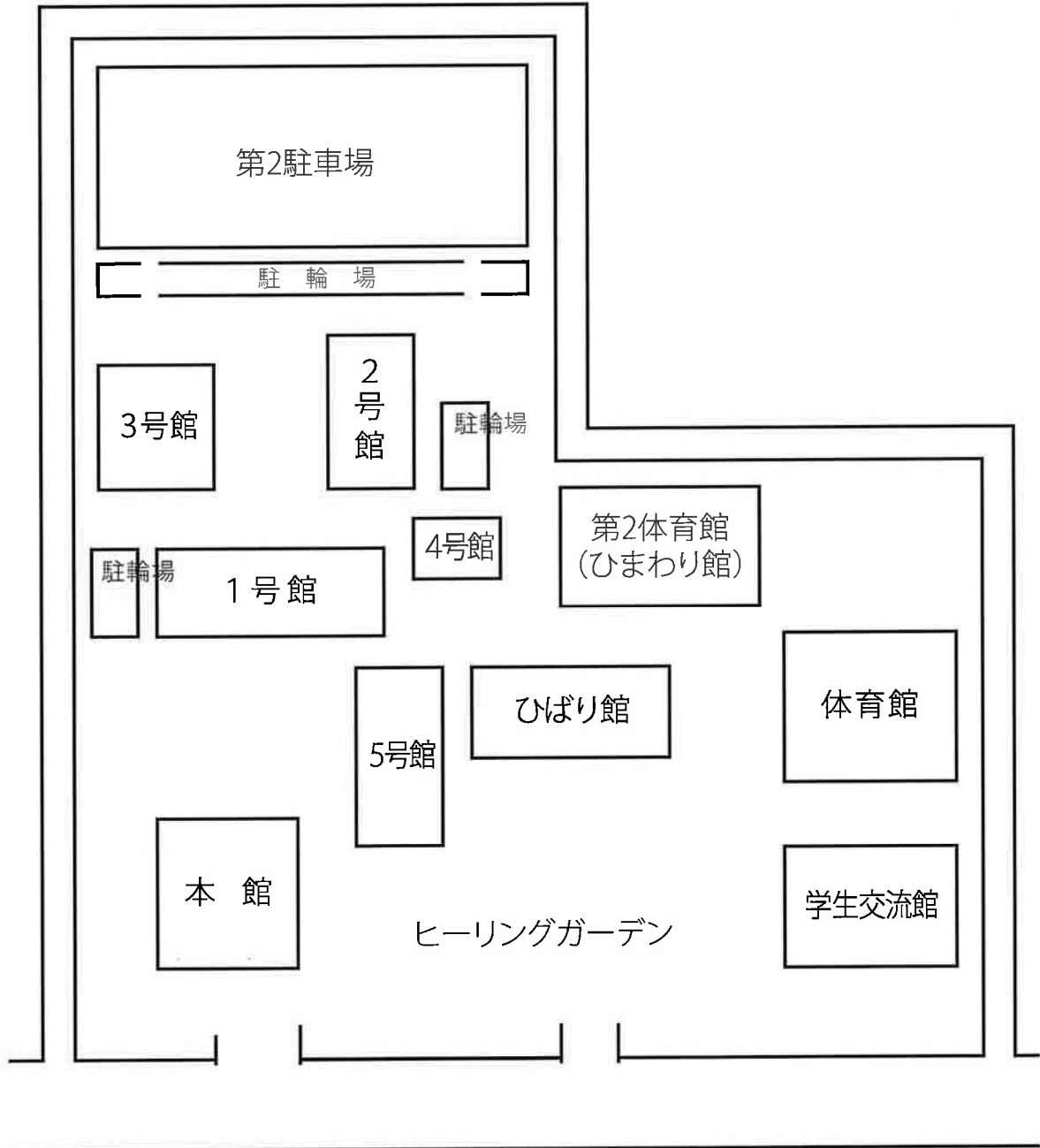
3号館 実験室 1 / 1F



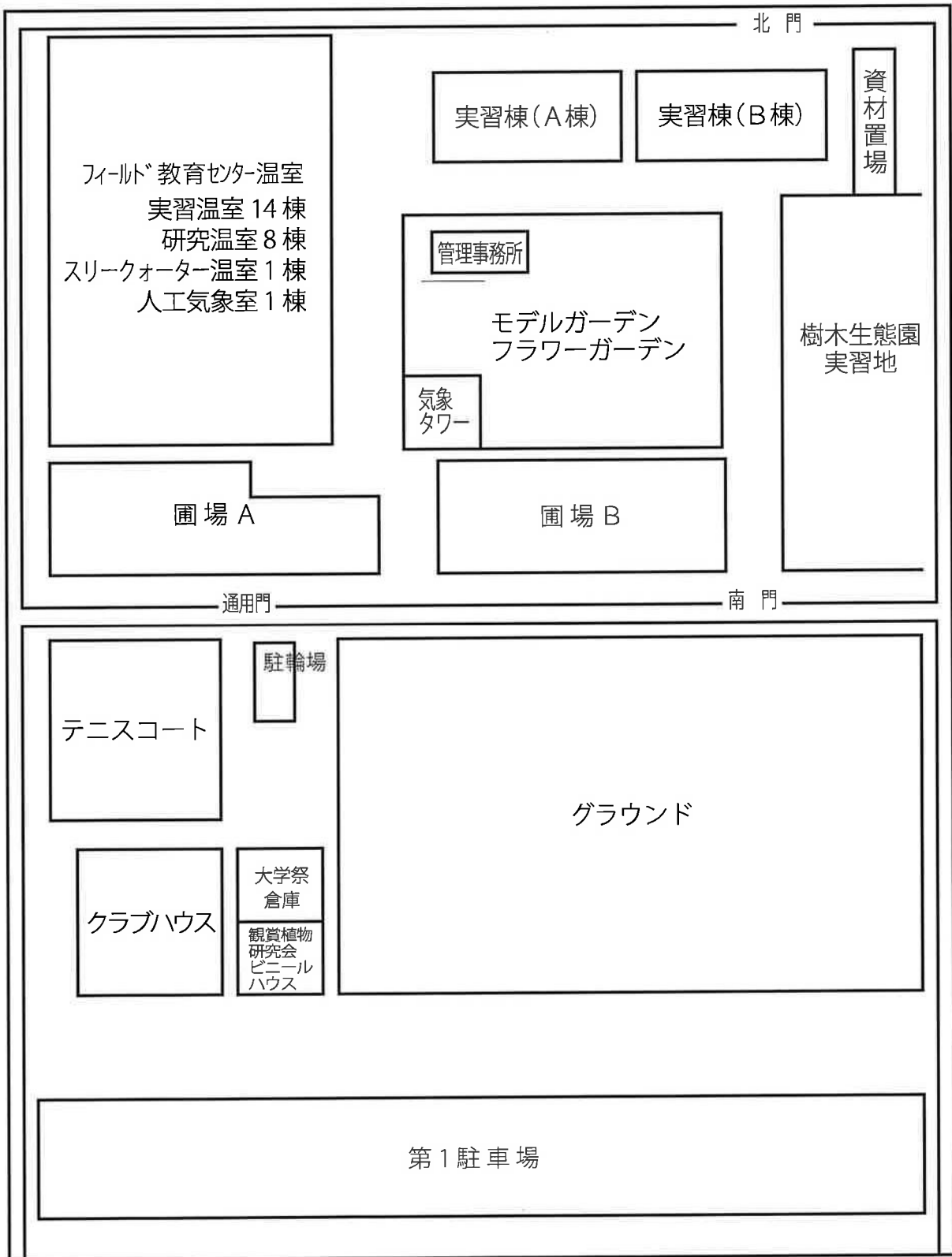
フィールド教育センター



都城キャンパス施設配置図



附属フィールド教育センター施設配置図



南九州大学学則の改正 新旧対照表

改正後 (下線は新設もしくは改正の箇所)	改正前 (下線は削除もしくは改正の箇所)																																						
<p>第 2 節 組 織</p> <p>(学 部)</p> <p>第 3 条 本学に、次の学部を置く。</p> <p style="margin-left: 2em;">環境園芸学部 健康栄養学部 人間発達学部</p> <p>2 前項の学部に置く学科並びにその入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境園芸学部</td> <td>環境園芸学科</td> <td><u>110人</u></td> <td><u>440人</u></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">健康栄養学部</td> <td>管理栄養学科</td> <td>60人</td> <td>240人</td> </tr> <tr> <td>食品開発科学科</td> <td>40人</td> <td>160人</td> </tr> <tr> <td>人間発達学部</td> <td>子ども教育学科</td> <td>80人</td> <td>320人</td> </tr> </tbody> </table> <p>ただし、人間発達学部子ども教育学科の入学定員80人のうち、保育士養成課程の定員は40人(収容定員は160人)とする。</p> <p style="text-align: center;">(省略)</p> <p>附則 1 この学則は、昭和42年4月1日から施行する。</p> <p>改正(省略)</p> <p>平成31年4月1日、令和2年4月1日、令和3年4月1日、令和4年4月1日、令和5年4月1日、<u>令和6年4月1日</u></p>	学部	学科	入学定員	収容定員	環境園芸学部	環境園芸学科	<u>110人</u>	<u>440人</u>	健康栄養学部	管理栄養学科	60人	240人	食品開発科学科	40人	160人	人間発達学部	子ども教育学科	80人	320人	<p>第 2 節 組 織</p> <p>(学 部)</p> <p>第 3 条 本学に、次の学部を置く。</p> <p style="margin-left: 2em;">環境園芸学部 健康栄養学部 人間発達学部</p> <p>2 前項の学部に置く学科並びにその入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境園芸学部</td> <td>環境園芸学科</td> <td><u>130人</u></td> <td><u>520人</u></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">健康栄養学部</td> <td>管理栄養学科</td> <td>60人</td> <td>240人</td> </tr> <tr> <td>食品開発科学科</td> <td>40人</td> <td>160人</td> </tr> <tr> <td>人間発達学部</td> <td>子ども教育学科</td> <td>80人</td> <td>320人</td> </tr> </tbody> </table> <p>ただし、人間発達学部子ども教育学科の入学定員80人のうち、保育士養成課程の定員は40人(収容定員は160人)とする。</p> <p style="text-align: center;">(省略)</p> <p>附則 1 この学則は、昭和42年4月1日から施行する。</p> <p>改正(省略)</p> <p>平成31年4月1日、令和2年4月1日、令和3年4月1日、令和4年4月1日、令和5年4月1日</p>	学部	学科	入学定員	収容定員	環境園芸学部	環境園芸学科	<u>130人</u>	<u>520人</u>	健康栄養学部	管理栄養学科	60人	240人	食品開発科学科	40人	160人	人間発達学部	子ども教育学科	80人	320人
学部	学科	入学定員	収容定員																																				
環境園芸学部	環境園芸学科	<u>110人</u>	<u>440人</u>																																				
健康栄養学部	管理栄養学科	60人	240人																																				
	食品開発科学科	40人	160人																																				
人間発達学部	子ども教育学科	80人	320人																																				
学部	学科	入学定員	収容定員																																				
環境園芸学部	環境園芸学科	<u>130人</u>	<u>520人</u>																																				
健康栄養学部	管理栄養学科	60人	240人																																				
	食品開発科学科	40人	160人																																				
人間発達学部	子ども教育学科	80人	320人																																				

学則の変更の趣旨等を記載した書類

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

南九州大学環境園芸学部環境園芸学科の入学定員 130 名のところを 110 名に、収容定員 520 名のところを 440 名に減少させる。

（変更前）

学 部	学 科	入 学 定 員	収 容 定 員
環境園芸学部	環境園芸学科	<u>130 人</u>	<u>520 人</u>

（変更後）

学 部	学 科	入 学 定 員	収 容 定 員
環境園芸学部	環境園芸学科	<u>110 人</u>	<u>440 人</u>

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

環境園芸学部環境園芸学科は、昭和 42（1967）年 4 月に宮崎県高鍋町に開学・開設された園芸学部園芸学科、造園学科の 1 学部 2 学科を前身とする。その後社会のニーズに呼応し学部・学科の増設・改組を進め、平成 21 年（2009）年に宮崎県都城市の都城キャンパスに移転し、園芸学部園芸学科及び環境造園学部造園学科、地域環境学科を改組し、環境園芸学部環境園芸学科を開設した。本学では、豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境のなかで、創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成するとともに、食・緑・人に関する基礎的、応用的研究をすすめる、専門分野において社会に貢献寄与できる人材を育成することを教育理念とし、各専門分野において社会に貢献寄与できる人材の輩出を目標に取り組んでいる。しかしながら、過去 10 年間における環境園芸学科の志願者数および入学者数は年々減少傾向にあり、入学定員を確保することが難しい状況が続いている。環境園芸学科の出身高校課程別入学者の特徴として農業系高校からの入学者数割合が高い傾向にあるが、農業系高校を含む職業学科（専門高校）の占める割合は年々減少傾向にあること、また、今後の 18 歳人口の減少を総合的に考慮した結果、入学定員 130 名の確保については困難であると判断し、20 名減員し適正な入学定員を 110 名としたい。

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（1）教育課程の変更内容

収容定員変更に伴う教育課程の変更は行わない。

（2）教育方法及び履修指導方法の変更内容

収容定員変更に伴う教育方法及び履修指導方法の変更は行わない。

(3) 教員組織の変更内容

収容定員変更に伴う教員組織の変更は予定していない。

(4) 大学全体の施設・設備の変更内容

収容定員変更に伴う大学全体の施設・設備の変更は予定していない。

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

・入学者の推移と現状

表1に環境園芸学部環境園芸学科の過去10年間（平成25年度～令和4年度）の志願者数、入学者数、入学定員、入学定員充足率、在 student 数、収容定員および収容定員充足率を示す。

環境園芸学科では平成25年には志願者数が185名、入学者数130名で入学定員充足率100%であったが、その後、年次変動はあるものの年々志願者数および入学者数が減少し、令和3年には過去10年間で最低の志願者数118名、入学者数79名で入学定員充足率60.8%となった。令和4年には志願者数130名、入学者数103名で入学定員充足率が79.2%に増加したものの令和元年（志願者数167名、入学者数120名、入学定員充足率が92.3%）と同様に一過的な増加と考えられ、過去10年間の志願者数および入学者数ともに減少傾向にある（図1）。

収容定員は520名であり、平成25年には収容定員が482名で収容定員充足率92.7%であったが、その後、一過的な増減はあるものの過去10年間の推移では志願者数および入学者数と同様に年々減少傾向にある（表1）。

このことから、令和6年度より入学定員を現行の130名から20名減員した110名とし、入学定員充足率の適正化に向けた取り組みを図ることとする。

表1 環境園芸学部環境園芸学科の志願者数・入学者数・在 student 数推移(平成25年度～令和4年度)

単位:人

学部	学科	入学定員	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
環境園芸学部	環境園芸学科	志願者数	185	161	177	174	155	131	167	138	118	130	
		入学者数	130	114	122	127	112	99	120	96	79	103	
		入学定員	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130
		入学定員充足率	100.0%	87.7%	93.8%	97.7%	86.2%	76.2%	92.3%	73.8%	60.8%	79.2%	
		在 student 数	482	479	489	493	469	454	459	420	380	390	
		収容定員	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520
		収容定員充足率	92.7%	92.1%	94.0%	94.8%	90.2%	87.3%	88.3%	80.8%	73.1%	75.0%	

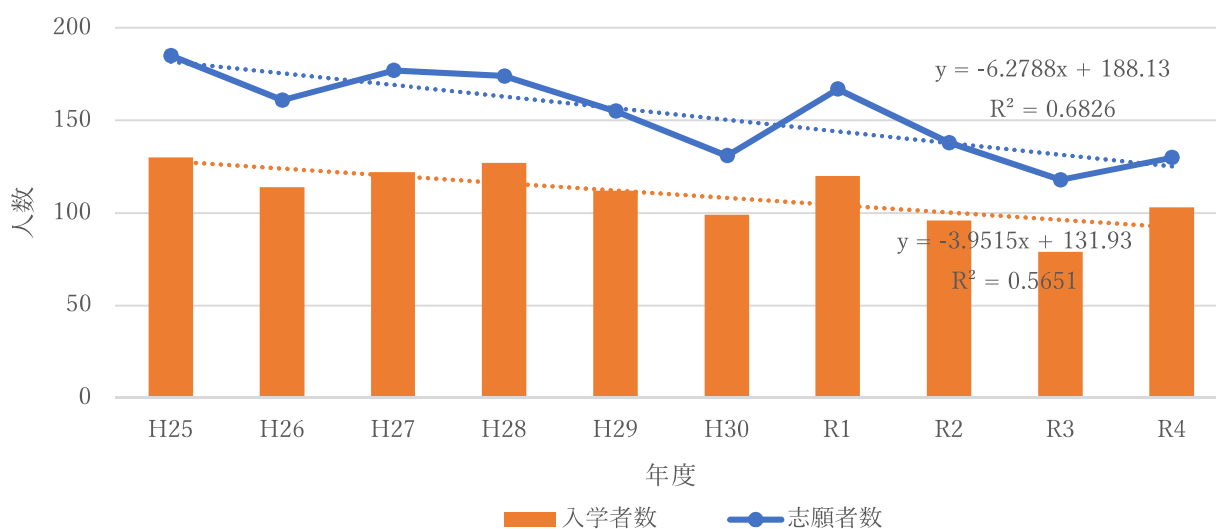


図1 志願者数および入学者数の年次推移（平成25～令和4年度）

・定員充足の見込み

環境園芸学部環境園芸学科の過去10年間の志願者数および入学者数の年次推移について、年々減少傾向にあるものの志願者数と入学者数は高い相関関係にある。このことから入学者数を増加させるためには、志願者数を増加させる必要がある。志願者数が増加することで入学者数の増加が見込まれる。

環境園芸学科における過去10年間の入学者出身高校課程別年次推移をみると農業系高校からの入学者数割合が高い(図2)。平成25年には入学者数130名に対し農業系高校からの入学者は93名(71.5%)であるが、令和4年度には入学者数103名に対し農業系高校からの入学者は68名(66.0%)にまで減少しており、過去10年間の農業系高校からの入学者数は減少傾向にある。特に平成29年度については入学者数112名に対し農業系高校からの入学者は92名(82.1%)にまで農業系高校からの入学者割合が増加したが、その後令和3年度については入学者数79名に対し農業系高校からの入学者は50名(63.2%)となり、農業系高校からの入学者数割合は年々減少傾向にある。過去10年間の農業系高校からの入学者数と環境園芸学科への入学者数は高い相関関係にある。このことから、過去10年間の入学者数の減少傾向は農業系高校からの入学者数の減少が原因であることが推察される。

その一方で、過去10年間のその他の高校からの入学者数は年次変動はあるものの概ね横ばい傾向にある(図2)。上述のとおり、過去10年間で入学者数が最も減少した令和3年度については入学者数79名に対し農業系高校からの入学者数は50名(63.2%)で対前年度比(令和2年度比)73.5%であったが、その他の高校からの令和3年度入学者数は29名(36.7%)で対前年度比(令和2年度比)100.0%であった(図2)。また、平成25年度から令和元年度までの7年間でその他の高校からの入学者数割合が30%を超えた年度は平成27年度の31.1%のみであったが、直近3か年では全ての年度において30%を超えている(令和2年度30.2%、令和3年度36.7%、令和4年度34.0%)。環境園芸学科への入学者数は年々減少しているものの、これは農業系高校からの入学者数の減少が主な原因であり、その他の高校からの入学者数の減少は認められず、寧ろここ7年間では増加傾向にある。

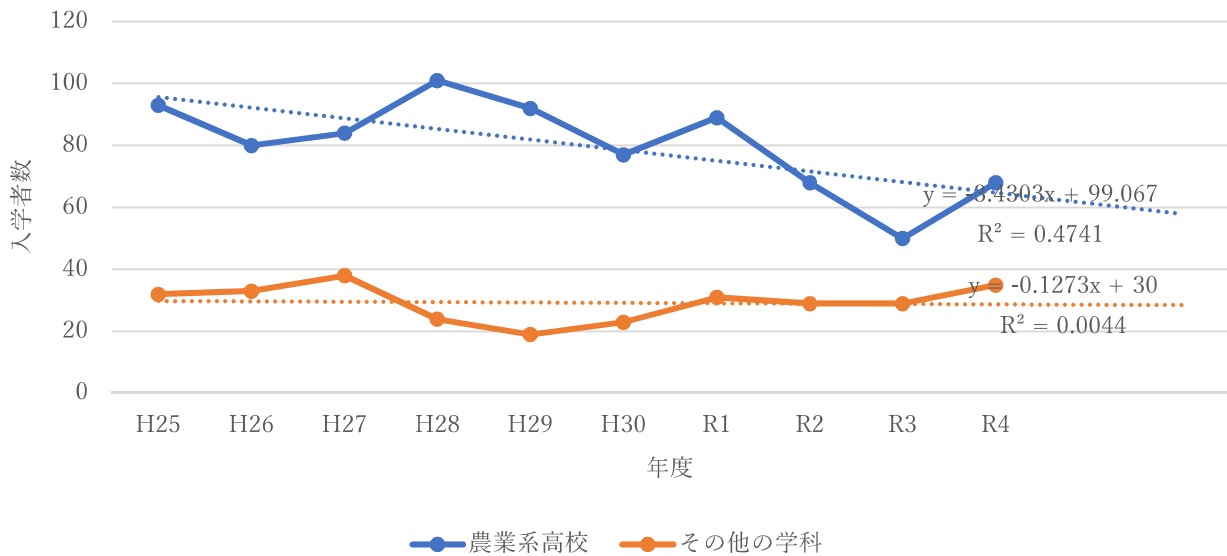


図2 出身高校課程別構成比年次推移（平成25～令和4年度）

令和4年度高等学校状況別卒業生数（文部科学省令和4年度学校基本調査）によると、高校生全体に占める普通科高校生の割合は77%、一方で農業系高校生の割合は3%であり、圧倒的に普通科高校生の割合が高い（図3、文部科学省令和4年度学校基本調査学科別状況別卒業生数データをもとに作図）。この傾向については、1955年から現在に至るまで普通科の比率が高まる一方で、農業高校を含む職業学科（専門高校）の占める割合は1955年には40.1%であったが、2022年は17.8%と大きく減少している（文部科学省「令和4年度学校基本調査報告書」）。また、高等学校状況別卒業生の大学や短大等への進学率については全体的に増加傾向ではあるものの、普通科高校生で69.1%、農業系高校生で16.2%と依然として両者の進学率に大きな開きがある（文部科学省「令和4年度学校基本統計（学校基本調査報告書）」、高等学校卒業生の学科別進路状況（文部科学省、令和4年3月卒））。少なくとも過去10年間にわたり農業系高校からの入学者に依存してきた環境園芸学科は、農業系高校を含む職業学科（専門高校）への全国的な入学者数減少の影響を大きく受けてきたことが推測される。

以上のことから、農業系高校からの入学者数の減少をできる限り抑制し、圧倒的に学生数比率および進学率の高い普通科高校からの入学者数を増加させ、普通科高校からの入学者数比率を高めることで入学者数の安定確保が期待できるものと考えられる。

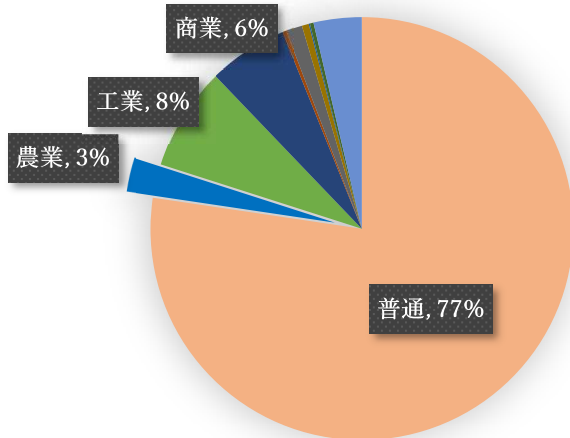


図3 令和4年度高等学校状況別卒業生数（文部科学省令和4年度学校基本調査データをもとに作図）

環境園芸学科における過去10年間の入学者に対する男女構成比年次推移について図4（男性）および図5（女性）に示す。平成25年には全入学者数130名に対し男性入学者比率は79.9%、女性は20.1%であるが、令和4年度には入学者数103名に対し男性入学者比率は75.9%、女性は24.1%であり、全入学者に占める男性比率は年々減少傾向にあるが（図4）、女性比率は年々増加傾向にある（図5）。しかしながら、過去10年間の入学者に対する男女構成比年次推移からも依然として女性比率（18.4～25.5%）に比べて男性比率（81.6～74.5%）が高いことから、入学者数年次推移は男性比率と同様の減少傾向にある（図4）。令和元年度および令和4年度には一過的な入学者数の増加が認められるが（図4、図5）、これらの年度においては女性比率が高まっている（図5）。また、男性比率は平成25年度から平成28年度にかけては79.9～81.6%と高比率で推移しているが、平成26年度を境に平成30年度から令和4年度にかけては74.5～77.4%と構成比が低下している（図4）。一方、女性比率は男性比率とは逆に平成26年度を境に構成比が増加している（図5）。文部科学省令和4年度学校基本調査によると18歳人口に対する高等教育機関への進学率は83.8%で過去最高を維持しており、大学学部の在学者数は過去最多で、そのうちの女子学生の割合も45.6%と過去最高を維持している。また、昭和50年（1975年）と比べて、女性の大学入学者数は約19万人増加しており、男女とも進学率は上昇傾向にあるが女性の上昇幅がより大きいことが示されている（文部科学省「学校基本統計」）。環境園芸学科の入学者数は少なくとも過去10年間にわたり男性入学者数に大きく依存しているものの、男性入学者数が減少する一方で女性の社会進出に伴う進学率の増加により本学科への女性入学者数が徐々に増加してきている。

以上のことから、普通科高校からの入学者数を増加させていくことに加えて、女性入学者数を増加させ、女性入学者数比率を高めていくことでさらなる入学者数の安定確保が見込める。

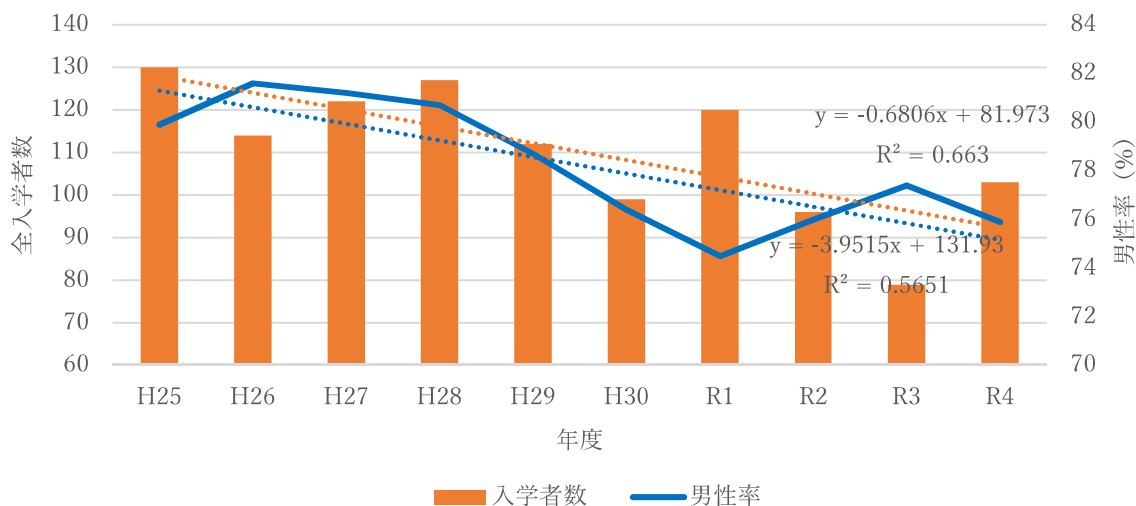


図4 入学者に対する男性構成比年次推移

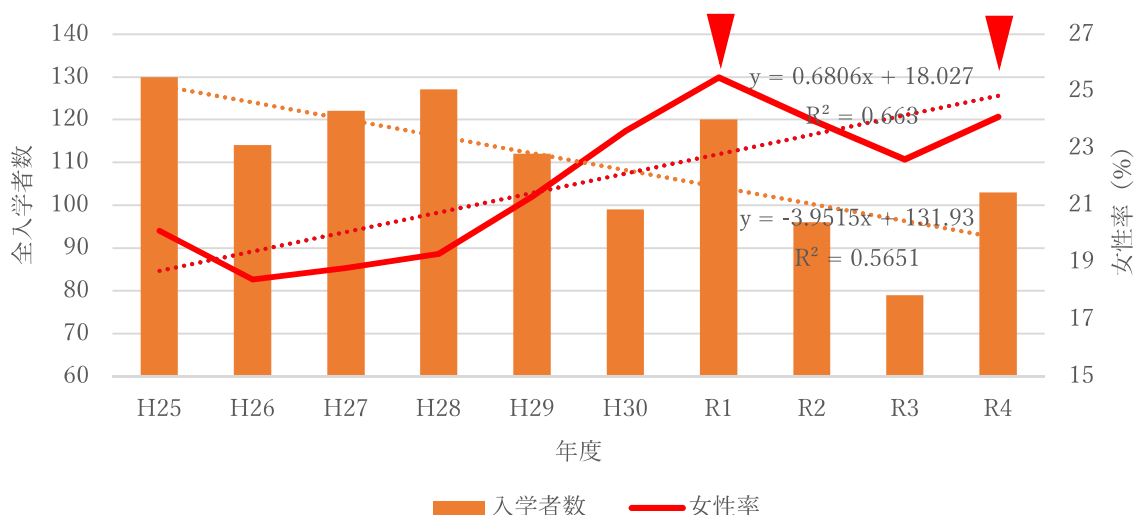


図5 入学者に対する女性構成比年次推移

②学生確保に向けた具体的な取組状況

本学は、建学の精神に「実学と個性教育による人格向上と、地域に貢献しうる人材育成」を掲げ、地域を愛し、地域に愛される大学を目指し到達すべき目標として定め、地域教育力 No.1 を目標に取り組んでいる。教育力向上の一環として、データサイエンスおよび AI の基礎的な知識を修得し、数理・データサイエンス・AI を日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に付け、第4次産業革命、Society 5.0 の社会に必要とされる人材の育成を目標として、令和4年8月に「南九州大学数理・データサイエンス・AI リテラシープログラム」が文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定された。また、令和4年9月には、文部科学省・大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材育成事業～SPARC～」に「新しい価値を創造し持続可能な地域づくりを牽引する『多様な未来共創人材』の育成プログラム」（事業責任大学：宮崎大学／参加大学：南九州大学、宮崎国際大学、宮崎学園短期大学）として採択され、多様な分野における持続可能な地域づ

くりを支える「未来共創人材」を育成する目的で令和7年度からの SPARC 教育プログラム開始を目指し大学をあげて取り組んでいる。

環境園芸学科としての取り組みとしては、上述の現状分析により得られた結果に基づく学生募集活動を効果的に実施おり、今後も強化していく。その取り組みの一環として、女子学生へ農業の魅力を効果的に伝えるために「農業女子プロジェクト 2022“Farm to Table”」を実施している。本プロジェクトは農林水産省が実施している『未来の農業女子育成「チーム“はぐくみ”」』の一環として参画し、宮崎県内の女性農業者団体との交流を通じて播種から販売までを行っている。そのほか、本学ホームページ上での学科情報およびトピックスの更新やインスタグラムなどの SNS を活用したリアルタイムな情報発信、魅力的なカリキュラムのパッケージ化と見える化、教育環境の整備・充実、各種資格取得支援と就職が一体化した出口戦略までを含めた教育プログラムのパッケージ化等を実施している。また、新型コロナ禍で中止していた全国的な高校訪問も令和5年度から再開する予定である。

これらの取り組みにより令和6年度以降の安定した入学定員の確保を目指す。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学では、『食・緑・人』に関する実学的教育と研究をすすめる、創造性を富み、人間性と社会性豊かな人材を育成する」という理念に基づいて教育研究し、専門分野において社会に貢献寄与できる人材の輩出を目標としている。この目標を実現するため、全学的な教養教育組織およびそれぞれの学部・学科において、「教養、人間力、社会性および国際性を身に付け、社会に貢献寄与できる人材」、「環境と生命の調和および持続可能な発展を踏まえた「食・緑・人」の専門分野における基礎および実学を教育研究し、社会に貢献寄与できる人材」を育成することを目標として取り組んでいる。

環境園芸学科の教育目標は、環境園芸学に基づく「人間と自然との調和を共通認識として、環境に負荷をかけず、持続可能な循環型社会を実現できる、かつ社会に貢献できる専門職業人を育成する」ことである。そのため、「1. 知識・理解を応用し活用する能力」として (1) 園芸・造園・自然環境に関する多様な知識・技術を修得し、それらを応用できる能力、(2) 多様な生物・環境資源の特性を理解し、持続可能な循環型社会づくりに貢献できる能力、「2. 汎用的技能を応用し活用する能力」として (1) 人間と自然との調和の視点に立ち、持続可能な循環型社会の構築のために必要な情報を収集し、そこから個々の問題に対処し、解決できる能力、(2) 論理的で明瞭な思考と冷静な判断ができ、情報リテラシーをもって正しく活用できる能力、「3. 人間力、社会性、国際性の涵養」として (1) 専門性を活かし、生物・環境資源の利用と持続可能な循環型社会を創造し、貢献できる能力、(2) 園芸・造園・自然環境の専門職業人として、人間と環境との調和を図りながら、組織や地域の中で、自らの役割を把握し、協調性をもって、連携・協働できる能力、(3) 園芸・造園・自然環境を取り巻く状況や価値観を理解し、コミュニケーションを円滑に進められ、関係する地域・組織とのネットワーク構築を担うことができる能力、(4) 生涯にわたり自らの専門性を向上させるための学習力・活用力を養うことができる能力、(5) 園芸・造園・自然環境の専門職業人として、常に自己研鑽に取り組む、自らの可能性を高め続けられる能力、を養成できるよう教育・研究に取り組んでいる。

② 地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

環境園芸学科においては、卒業後社会に出て即戦力として社会で活躍できる人材を育成する目的として就職指導を教育の一環と位置づけており、1年次からのキャリア入門や3年次からのインターンシップ、3年次後期の職業指導等を通して学生の就業に対する意識付けや職業に対する適合確認や社会人基礎力の育成を図っている。また、就職課では1、2年次に先取りセミナー就職ガイダンス、3年次には就職支援ガイダンス、3、4年を対象とした学内企業説明会を実施している。また、必要な学生を対象にして海外農業研修説明会や自己分析講座、SPI性格検査受験会、業界・企業研究講座、公務員講座、履歴書・ES対策講座など多彩な講座を開設している。また、地域の人材需要およびマッチングに資する取り組みとして「みやぎきの元気企業と語る会～in 南九州大学～」を開催している。

令和元年度、2年度、3年度の環境園芸学科の就職率については、卒業生比でそれぞれ93.6%、90.2%、98.7%と高い就職率を維持している。令和4年度に本学IR・DX推進室において本学学生の採用実績のある県内外の企業等158事業所を対象に実施した南九州大学『卒業生に関する就職先企業等へのアンケート2022』の結果によると、企業側が大卒人材を採用するにあたり重要視している能力については「コミュニケーション能力」が最も高く、次いで「協調性・チームワーク」、「積極性・主体性」、「社会人としての基礎的教養」の順に重視しているとの結果であった(図6)。また、本学卒業生が企業側の人材ニーズや期待に応えているかという問いに対しては「十分応えている」、「どちらかと言えば応えている」の肯定的な意見が8割を超えた(図7)。このことは、『食・緑・人』に関する実学的教育と研究をすすめて、創造性を富み、人間性と社会性豊かな人材を育成するという本学の教育理念に沿う回答となっている。また、企業側が考える本学へ求める教育内容として、最も多く挙げられたのは、「コミュニケーション能力の育成」であった。また、業界の特性に合わせた「実践的・専門的な実験・実習」や社会生活において共通する「一般常識・一般教養」も多く挙げられていた。

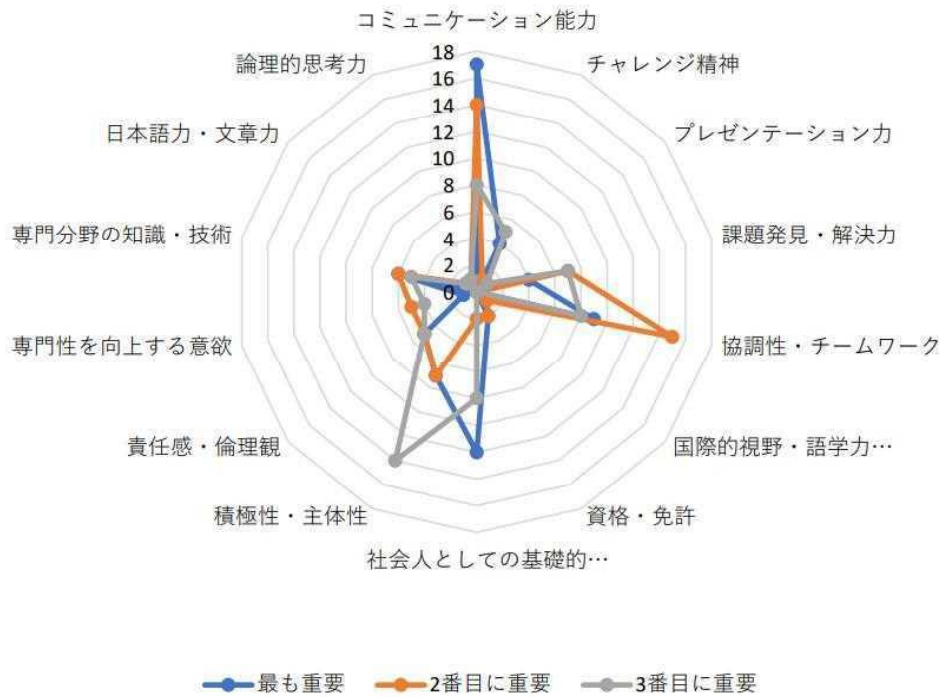


図6 企業側が大卒人材を採用するにあたり重要視している能力（『卒業生に関する就職先企業等へのアンケート』2022）

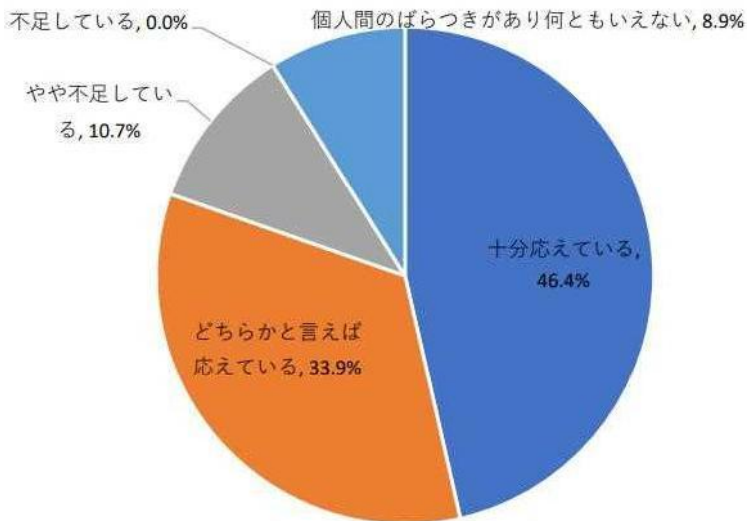


図7 本学卒業生の企業側人材ニーズや期待への対応（『卒業生に関する就職先企業等へのアンケート』2022）

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
	学長	中瀬 昌之		博士 (農学)		令和4年9月

（注） 高等専門学校にあつては校長について記入すること。